

授業科目名	キャリア形成論		1 単位		年次・開講	
			1 5 時間 / 8 回		1 年次・ 前期	
担当講師	根本桂子 渡邊瞳		実務経験教員対象科目		○	
科目目標	自己を見つめ、なりたい看護師像を明確にし、看護として必要な資質を培う。					
使用テキスト	なし					
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1 (1H)	ガイダンス	看護師としてのキャリアを形成していくための進め方 評価表：①社会人基礎力（生活編・実習編） ②看護の基礎教育終了時に求められる実践能力と到達目標 ③学年の到達目標	授業に内容について考えをまとめる	講義 演習	課題・ レポート 100 点	
2	目標とする看護師になるために	看護師に必要な資質・能力とは（外部講師）	指示された課題に取り組む	講義 演習		
3		前に踏み出す力を養う		講義 演習		
4		考え抜く力を養う		講義 演習		
5		チームで働く力を養う 多職種と連携するには		講義 演習		
6		中間評価 前期の振り返りと後期への課題について		自己評価を記載し提出 評価表①～③を提出		
7	看護観を深める 看護研究発表会参加（12月）	指示された課題に取り組む	発表 会参 加			
8	まとめ	年度末評価 レポートテーマ：看護職になるためにどんなことが必要か。自分に足りないものは何か。	1 年の振り返りを まとめの提出 評価表：①～③ 提出	講義 演習		

授業科目名	形態機能学		1 単位	年次・開講	
			15 時間 / 8 回	1 年次・ 前期	
担当講師	円谷かおり 斎藤 朋恵 渡邊 瞳		実務経験教員対象科目	○	
科目目標	科学的根拠に基づいた看護を実践するために、人体の構造・構成及び運動生理などの機能を系統的に理解できる				
使用テキスト	医学書院 e 人体の構造と機能 1 解剖生理学				
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	ガイダンス	形態機能学の学び方	自己学習ノートを持参する	講義 演習	筆記 50 点 + 演習 自己 学習 ノート 50 点
2	動く	1. 骨・筋・神経の構造と機能を踏まえ、日常生活動作について考える 1) トイレに行く 2) お風呂に入る 3) 食べ物を口に運ぶ 4) 仰臥位～端坐位～立位になるまで 5) 歩く～階段昇降 6) ドアの開け閉め 7) 服の着脱	骨・筋・関節・神経の構造と機能	演習	
	食べる 排泄する	1. 消化器の構造と機能を踏まえ、消化吸収について考える 1) 食べる（口に入ってから胃まで） 2) 食べる（十二指腸から肛門まで）	消化器の構造と機能（咀嚼・嚥下・消化・吸収）  授業内容について、既習の知識を活かし、自己学習したものを授業前に提出。		
3		動く・食べる・排泄することについてまとめ、学び合う	意見交換で得た知識を自己ノートに追加し翌日提出。		
4	内部環境の恒常性 恒常性維持のための流通機構	1. 内部環境の恒常性と恒常性維持のための流通機構を踏まえ、次の症状の仕組みについて考える 1) 脱水になる仕組み 2) 体温調節の仕組み 3) 浮腫の仕組み 4) 血が止まる仕組み 5) チアノーゼが出現する仕組み 6) 低血圧の仕組み 7) 尿産生の仕組み	体液の分類と電解質 血漿の pH 動脈血の酸素分圧 体温調節 血液・血管・リンパ管の構造と機能 心臓の拍出機能 肺循環・体循環 腎臓での尿産生機構	演習	

			授業内容について、既習の知識を活かし、自己学習したものを授業前に提出。		
5		内部環境の恒常性・恒常性維持のための流通機構についてまとめ、学び合う	意見交換で得た知識を自己学習ノートに追加し翌日提出。		
6	内部環境維持のための調節機構	<p>1. 脳神経・自律神経の構造と機能を踏まえ日常生活への影響を考える</p> <p>1) 中枢神経系(脳と脊髄)の障害と日常生活への影響</p> <p>2) 末梢神経系(脳神経)の障害と日常生活への影響</p> <p>3) 末梢神経系(脊髄神経)の障害と日常生活への影響</p> <p>4) 末梢神経系(自律神経)の障害と日常生活への影響</p> <p>5) 脊髄反射の仕組みとその他の反射 日常生活とのつながり</p>	脳・神経の構造と機能 自律神経の機能	演習	
	息をする	<p>1. 呼吸器の構造と機能を踏まえ、呼吸について考える</p> <p>1) 息を吸う</p> <p>2) 息を吐く</p>	呼吸器の構造と機能 呼吸・ガス交換		
7		内部環境維持のための調節機構・息をすることについてまとめ、学び合う	意見交換で得た知識を自己ノートに追加し翌日提出。		
			※試験終了後、自己学習ノート提出(評価対象)		
8	全体のまとめ 試験 ※授業 5/7 回以上の出席を必要とする				

授業科目名	症候論		1 単位	年次・開講	
			30 時間 / 15 回	2 年次・前期	
担当講師	伊藤 祐子 石井 香奈 渡邊朋世		実務経験教員対象科目	○	
科目目標	看護の視点で、系統的に異常に伴う症候から病因・病態を学び、各病態に対する検査・治療を学ぶ				
使用テキスト	医学書院 e 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 e 成人看護学 [2] 呼吸器 [3] 循環器 [4] 血液・造血器 [5] 消化器 [6] 内分泌・代謝 [7] 脳・神経 [8] 腎・泌尿器 [9] 女性生殖器 [10] 運動器				
回数	単元	授業内容		評価	
1	オリエンテーション	1. 学習の進め方		筆記 50 点 演習 50 点	
2	呼吸器系、消化器、代謝系障害	①上気道障害・下気道障害、②肺 ③上部消化管④下部消化管⑤肝臓⑥すい臓の障害について それぞれの障害について発生機序や検査・治療をまとめる 講義・個人テスト	事前学習を各自行う ①～⑥の障害について、講義の準備、テスト作成 授業で使用する PP を 6 回目の前日までに提出 テストを作成し 6 回目までに人数分印刷し、1 部提出。		
3			講義時間は 15 分程度（質問等も含む）		
4					確認テスト、採点・振り返り、補足説明
5					
6					
7					
8			循環器系、脳、神経系の障害		①・②心臓の障害、③腎臓④・⑤脳血管障害⑥脊髄の障害について それぞれの障害について発生機序や検査・治療をまとめる 講義・個人テスト
9	講義時間は 15 分程度（質問等も含む）				
10		確認テスト、採点・振り返り、補足説明			
11					
12					
13					
14	学びの共有				
15	筆記単位認定試験 試験終了後事前学習ノート提出 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする				

授業科目名	基礎看護概論 I		1 単位	年次・開講	
			30 時間 / 15 回	1 年次・ 前期	
担当講師	松田 智恵子		実務経験教員対象科目		○
科目目標	看護の概念や看護理論を学び、看護の本質を理解する				
使用テキスト	医学書院 e 看護学概論				
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	看護を学びはじめるにあたって	「看護」を学ぶ 科目がドイツ、基礎看護学の位置づけ、 DVD「プロフェッショナル専門看護師の仕事」	学習課題① ナイチンゲール 「訓練についての 一般的考察」	講義	レポート 10 点 小テスト 20 点 GW 20 点 筆記 50 点 計 100 点
2	看護活動の本質	ナイチンゲールの看護の定義① ナイチンゲールの功績と「看護覚え書」	「看護覚え書」	講義 演習	
3		ナイチンゲールの看護の定義② 看護であること・看護でないこと	「看護覚え書」		
4		V.ヘンダーソンの看護の定義 「看護の基本となるもの」、基本的ニードGW	「看護の基本となるもの」		
5		看護の役割と機能 ケアとケアリング、様々な看護の定義	学習課題② 「様々な看護理論」		
6		看護サービス提供の場と看護の質の保証 看護の継続と連携、医療チームと多職種連携			
7		看護の対象の理解	人間のこころとからだ 成長発達段階からみた人間の理解 身体・精神・社会のつながり		
8	生活者としての人間の理解 マズローの欲求段階説、キューブラロス、フィク				
9	健康のとらえ方	健康のとらえかた 健康の定義、ヘルスプロモーション	学習課題③ 「健康とは」	講義 演習	
10		GW「大切な人たちの健康を守るための提案書」			
11		GW「大切な人たちの健康を守るための提案書」 発表			
12		人々の生活と健康に関する統計 国民の健康状態とライフサイクル			
13	看護の提供者	看護の提供者 職業としての看護、看護職の資格と養成、 就業状況と継続教育、スペシャリストの育成	小テスト② (7～12 回)	講義	
14	看護における倫理	看護倫理① 患者の権利、看護者の倫理綱領		講義 演習	
15		看護倫理② 事例を通して考える	事例の疾患について 調べる		

授業科目名	基礎看護概論Ⅱ		1 単位	年次・開講		
			30 時間 / 15 回	3 年次		
担当講師	伊藤 祐子		実務経験教員対象科目	○		
科目目標	看護の概念や看護理論を学び、看護の本質を理解する					
使用テキスト	医学書院 e 看護学概論、 ナツメ社 初めての看護研究					
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1		オリエンテーション		講義	抄録・ 発表 レポート 80 点  筆記 20 点	
2	看護研究の 意義	看護研究とは 看護研究の目的と看護に置ける研究の重要性 研究論文を読む	看護理論を想起又 は、学習し臨むこと 使用テキストを熟読 し、講義に臨むこと	講義 演習		
3	看護研究の プロセス	研究課題の明確化、文献検索、研究デザイン、 倫理的配慮		講義 演習		
4・5	研究の実践 (事例研究)	事例研究のまとめ	事前に抄録を読み、 疑問を持って臨む	個別 指導		
6・7		事例研究の発表 事例研究発表会への参加				
8・9	調査研究 (量的研究)	研究計画書の作成、 研究の進め方 (研究計画書)	事前に抄録を読み、 疑問を持って臨む	演習		
10・ 11		データの収集・分析 論文のまとめ方・発表方法 調査研究のまとめ				
12・ 13		研究の発表				
14	事例研究の 振り返り	看護研究発表の振り返りの共有	看護研究発表の振り返りと修正を提出 (レポート)			
15	全体のまとめ 試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする					

授業科目名	基礎看護方法論 I		1 単位	年次・開講	
			30 時間 / 15 回	1 年次・ 後期	
担当講師	高林圭子		実務経験教員対象科目		○
科目目標	対象の健康問題を解決するための科学的思考プロセスが理解できる。				
使用テキスト	医学書院 e 基礎看護学 2 基礎看護技術 I				
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	看護過程とは	1. 看護過程の基本構造 2. 問題解決型アプローチと看護過程 3. 問題志向型システムとしての看護過程 4. フィードバックシステムとしての看護過程	夏季休業前に提示される課題について学習し、授業開始前に提出	講義	筆記 80 点
2	アセスメント (情報収集と分析)	1. 情報収集と整理 看護理論とアセスメントの枠組み 2. 情報の分析・解釈	前回の復習と授業内容の予習をして授業に臨む	講義	
3		1. 大腿骨頸部骨折患者の看護事例 (DVD) よりゴードンの 11 の機能健康パターンを活用し情報収集・アセスメント・看護問題抽出	事例についての事前学習を授業前に提出	演習	
4			演習		
5	記録記載と報告	1. 記録の種類 2. 記載・管理における留意点 (ここまでは基礎看護実習 I で活用)	基礎看護実習 I の記録用紙の確認	演習	
6	看護問題の明確化	(ここからは基礎看護実習 I の経験をもとに学ぶ) 1. 関連図を用いて全体像の理解	授業内容の予習と実習での経験から自己の課題をもって授業に臨む	演習	
7		1. 看護問題 (看護診断) の種類 2. 関連因子と症状・徴候 3. 看護問題の優先順位の考え方 4. 看護問題の記載方法 1) NANDA - I の看護診断ラベル		講義	
8		1. 看護計画の立案 2. 目標と評価日の設定 1) 計画の立案 2) 観察計画・ケア計画・指導/教育計画		講義	
9				講義	
10	実施と評価	1. 看護計画の実施と記録 2. 看護実践と看護計画の評価の方法		講義	
11	事例展開 まとめ	1. 事例に基づく看護過程の演習	事例についての事前学習を授業前に提出。 終了時 1. 2. を提出。	演習	演習 20 点
12		アセスメント、全体像 (関連図)、看護問題抽出、看護計画立案			
13		2. 事例についての学びを自己学習ノートにまとめる			
14					
15	全体のまとめ 単位認定試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする				

授業科目名	基礎看護方法論Ⅱ		1 単位		年次・開講	
			30 時間 / 15 回		1 年次・ 前期	
担当講師	斎藤 朋恵 渡邊 瞳		実務経験教員対象科目		○	
科目目標	看護技術の構造について理解できる 安全安楽を踏まえた看護技術について理解できる 看護援助に必要な人間関係を成立・発展させるための基本的技術が理解できる 罨法の基本的援助技術を理解・習得できる 環境調整の意義と基本的援助技術を理解できる					
使用テキスト	医学書院 e 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ、[3] 基礎看護技術Ⅱ					
回数		単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	斎藤	看護技術とは	看護技術の意義 看護技術の特徴と基本原則 基礎看護技術として求められる範囲 看護技術の遂行に求められる能力	教科書、看護技術習得要綱を持参	講義	なし
2	斎藤	安全管理・安楽の確保の技術	1. 安全・安楽とは 2. 安全・安楽の阻害因子 3. 医療事故とその対策・抑制	授業内容に該当するテキストを熟読して授業に臨むこと	講義	筆記 15 点
			1. 安楽とは 2. 安楽に過ごすための体位とは 3. 体位の種類と身体への影響 4. 同一体位の弊害		講義	
3	渡邊	看護実践における人間関係の必要性	1. 医療におけるコミュニケーションの特徴 1) 医療者と患者 2) 医療者と医療者 2. コミュニケーションの構成要素 3. コミュニケーションの伝達方法 1) 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 2) コミュニケーションにかかわる要因	授業内容に該当するテキストを熟読して授業に臨むこと	講義	筆記 50 点
4		看護におけるコミュニケーションの基本技術	1. コミュニケーションの基本技術 1) 信頼関係の構築 2) 傾聴の技術 3) 情報収集の技術 4) 環境設定	授業内容に該当するテキストを熟読し授業に臨むこと	講義	
5		看護におけるコミュニケーションの基本技術	1. 事例を通してのコミュニケーション技術	事例についての事前学習を授業前に提出	GW	
6		看護におけるコミュニケーションの基本技術	1. 事例を通してのコミュニケーション発表	前回の復習をして授業に臨む	発表	



7	渡邊	コミュニケーション障害への対応	1. コミュニケーションに障害がある人の特徴 2. コミュニケーションに障害がある人への対応 1) 失語症のある人への対応 2) 構音障害のある人への対応 3) 伝音・感音・神経伝達に問題がある人への対応 4) 認知症のある人への対応 5) 意識障害がある人への対応	授業内容に該当するテキストを熟読し授業に臨むこと	講義	筆記 35点	
8		プロセスレコード	1. プロセスレコードの書き方 2. プロセスレコードから看護を振り返る	授業内容に該当するテキストを熟読し授業に臨むこと	講義		
9			1. 事例を通してのプロセスレコード	授業に臨むこと	GW		
10		電法	1. 電法の意義 2. 電法援助時の実際	授業内容に該当するテキストを熟読し、事前学習を授業前に提出して授業に臨むこと	講義		
11			1. 電法援助時の実際 1) 冷電法 2) 温電法		演習		
12		生活環境調整	1. 生活環境の意義 2. 病院内環境の調整	授業内容に該当する教科書を熟読し、事前学習を授業前に提出して授業に臨むこと	講義 演習		
13			3. 病床環境の調整法 1) ベッドメイキング 2) リネン交換				
14							
15			全体のまとめ 試験 ※授業 10/14 以上の出席を必要とする				

授業科目名		基礎看護方法論Ⅲ		1 単位		年次・開講	
				30 時間 / 15 回		1 年次・ 前期	
担当講師		佐藤 成美 石井 香奈		実務経験教員対象科目		○	
科目目標		活動と運動、睡眠と吸息の意義と基本的援助技術が理解できる 清潔、衣生活の意義と基本的援助技術が理解できる					
使用テキスト		医学書院 e 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ					
回数	講師名	単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1	佐藤	活動と運動 睡眠と休息	1. 運動に関するメカニズム 1) 運動のメカニズム 2) 運動の効果	授業内容に該当するテキストを熟読し、事例についての事前学習を授業前に提出して授業に臨むこと	講義	筆記 50 点	
2			2. 活動の意義 1) 活動の意義 2) 活動の種類 3) 活動のアセスメント 4) 活動・運動制限の影響と援助				
3					3. 活動と運動の援助方法 1) ボディメカニクス 2) 体位変換		講義 演習
4			3) 車椅子・ストレッチャーの移乗 4) 車椅子・ストレッチャーの移送 5) 歩行介助		講義 演習		
5							
6			1. 睡眠と休息のメカニズム 2. 睡眠障害のアセスメント 3. 睡眠と休息への援助方法		講義		
7							
8	石井	清潔 衣生活	1. 清潔の意義と生理的メカニズム 2. 清潔に関するニーズのアセスメント 3. 衣生活の意義とニーズのアセスメント	指示された課題について事前学習し、ノートにまとめ授業前に提出	講義	筆記 50 点	
9			3. 清潔援助の実際 1) 入浴 2) 全身清拭・寝衣交換				
10				事例についての事前学習を提出し授業に臨むこと	講義 演習		
11			3) 部分浴(手浴・足浴)				
12			4) 洗髪	授業での学びを自己学習ノートに追加する			
13							
14							
15		全体のまとめ 筆記試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする					

授業科目名		基礎看護方法論Ⅳ		1 単位		年次・開講	
				30 時間 / 15 回		1 年次・ 前期	
担当講師		斎藤 朋恵 渡邊 朋世			実務経験教員対象科目		○
科目目標		栄養と食生活の意義と基礎的援助技術を理解できる 排泄の意義と基礎的援助技術を理解できる					
使用テキスト		医学書院 e 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ					
回数		単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1	斎藤	栄養・食生活	1. 栄養と消化吸収 2. 食事の意義	授業内容について予習し、ノートにまとめ授業前に提出	講義 演習	筆記 50 点	
2			3. 栄養・食行動におけるアセスメント 1) 栄養状態 2) 摂取能力 3) 嚥下機能 4) 食欲・摂取行動のアセスメント				
3			4. 食事援助の実際 1) 療養における食事内容の調整(食事の種別) 5. 食事介助について				
4			6. 非経口的栄養摂取の援助				
5			7. 経管栄養法				
6			8. 経管栄養に関する援助 1) 栄養チューブの挿入				
7			2) 栄養チューブから栄養剤の注入				
8			渡邊				排泄
9	2. 排泄に関するアセスメント						
10	3. 排泄用具を用いた援助 1) トイレへの誘導 2) ポータブルトイレ 3) 床上排泄						
11	4. 排便・排尿障害時の援助・処置						
12	5. 排便障害時の処置：浣腸						
13	6. 排尿障害時の処置：導尿						
14							
15		全体のまとめ 試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする					

授業科目名	基礎看護方法論Ⅴ		1 単位	年次・開講	
			30 時間 / 15 回	1 年次・ 前期	
担当講師	円谷 かおり		実務経験教員対象科目		○
科目目標	対象者の健康状態を評価する基本的な方法が習得できる				
使用テキスト	医学書院 e 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I				
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	ヘルスアセスメント	1.ヘルスアセスメントとは 2.ヘルスアセスメントに必要な技術 3.ヘルスアセスメントの実際 1)全体の概観、健康観の聴取	授業内容について予習し、ノートにまとめ授業前に提出	講義	筆記 50点
2		2)事例に合わせたバイタルサインの観察とアセスメント 体温	事例についての事前学習を授業前に提出	講義 演習	
3		脈拍	前回の復習と授業内容の予習をして臨む		
4		呼吸			
5		血圧、意識のアセスメント			
6		身体の計測			
7	フィジカルアセスメント	患者の状態を踏まえた問診とは	指示された課題について事前学習し、ノートにまとめ授業前に提出	講義	筆記 50点
8		4.事例に基づくフィジカルアセスメント 1)呼吸器系のアセスメント	事例についての事前学習を授業前に提出  前回の復習と授業内容の予習をして臨む	講義 演習	
9		2)心臓血管系のアセスメント			
10		3)消化器系のアセスメント			
11		4)運動機能のアセスメント			
12		5)脳神経系・知覚機能のアセスメント			
13		6)外皮・免疫機能のアセスメント			
14		7)排泄機能と生殖器のアセスメント			
15	全体のまとめ 試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする				

授業科目名		基礎看護方法論VI		1 単位		年次・開講	
				30 時間 / 15 回		1 年次・ 前期	
担当講師		佐藤 成美 渡邊 瞳 根本 桂子			実務経験教員対象科目		○
科目目標		創傷管理、吸入、吸引の基本的援助技術が理解できる 薬物療法実施上での安全管理の実際が理解できる 薬物療法を実施するための基本的援助技術が理解できる 診察と検査の介助を実施するための基本的援助技術が理解できる					
使用テキスト		医学書院 e 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I、基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II フィジカル					
回数	講師名	単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1	佐藤	創傷管理	1. 無菌操作 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 針刺し事故	授業内容に該当するテキストを熟読し、事例についての事前学習を授業前に提出して授業に臨むこと	講義	筆記 30 点	
2			1. 創傷管理とは 2. 創傷処置 1) 創保護(ドレッシング材) 2) 包帯法				
3		吸入	1. 吸入の意義 2. 吸入の援助の実際 1) 酸素吸入 2) 薬液吸入		講義		
4		吸引	1. 吸引の意義 2. 吸引の援助の実際		講義		
5	渡邊	与薬	1. 薬物療法の意義と基本知識 1) 法律 2) 薬物の種類 3) 吸収と排泄 4) 薬理作用と影響	授業内容に該当するテキストを熟読し、事例についての事前学習を授業前に提出して授業に臨むこと	講義	筆記 50 点	
6			2. 薬物療法における看護者の役割と他職種との連携看護と法律・薬物療法における安全管理・安全な与薬法				
7			3. 各種薬物療法の援助技術 1) 経口与薬 2) 外用薬与薬：直腸内、点鼻、点眼、塗布 3) 注射法 注射の準備 医療廃棄物の取り扱い方				
8							
9			皮内・皮下・筋肉内注射				
10			静脈内・点滴の管理				

11			4)輸血法		講義	
12			輸血の目的、投与方法、援助の実際		演習	
13		診療	1. 診療の意義 2. 診察時の援助技術	授業内容に該当するテキストを熟読し、事例についての事前学習を提出して授業に臨むこと	講義	筆記 20点
14	根本	検査	1. 検査の意義・種類・看護師の役割 2. 採血 1) 静脈内採血 3. 血糖測定		講義 演習	
15	渡邊	全体のまとめ 試験 ※授業 10/14 回以上の出席を必要とする				

授業科目名		基礎看護方法論Ⅶ		1 単位		年次・開講	
				1 5 時間 / 8 回		1 年次・ 後期	
担当講師		渡邊 瞳 佐々木大貴 先崎英司			実務経験教員対象科目		○
科目目標		感染予防に必要な知識を理解し、援助技術を習得できる 医療機器に関する基本的操作を理解し、援助技術を習得できる					
使用テキスト		医学書院 e 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ、[4] 臨床看護総論					
回数	講師名	単元	授業内容	事前学習	方法	評価	
1	渡邊	感染防止	1. 感染防止の基礎知識 2. スタンダードプリコーション 3. 感染経路別予防策	授業内容に該当するテキストを熟読し、事前学習をして授業に臨むこと	講義 演習	筆記 40 点	
2			4. 感染防止のための手洗い 5. ガウンテクニック				
3		感染症看護	1. 感染症患者への対応 2. 感染予防対策に配慮した援助		講義		
4	佐々木	医療機器	1. 輸液ポンプの使用目的と方法	授業内容に該当するテキストを熟読して授業に臨むこと	講義 演習	筆記 60 点	
5			2. シリンジポンプの使用目的と方法		講義 演習		
6	先崎		3. 心電図、除細動の使用目的と方法		講義 演習		
7			4. 人工呼吸器の使用目的と方法		講義 演習		
8	渡邊	全体のまとめ 試験 ※授業 5/7 回以上の出席を必要とする					

授業科目名	基礎看護技術論 I	1 単位		年次・開講	
		4 5 時間 / 2 3 回		1 年次・ 前期	
担当講師	伊藤 祐子 斎藤 朋恵 渡邊 朋世			実務経験教員対象科目	○
科目目標	事例をもとに対象に応じた日常生活援助技術が習得できる				
使用テキスト	医学書院 e 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II				
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価
1	オリエンテーション		講義内容 と基礎・ 臨床看護 技術を確 認して、 実技に臨 む	実技	技術 試験 100 点
2	≪日常生活の援助技術について、 患者のニーズに合わせた援助技術 を学ぶ≫ 1. 環境調整技術 2. 食事の援助技術 3. 排泄援助技術 4. 活動・休息援助の技術 5. 清潔・衣生活援助の技術 6. 安楽確保の技術	4 つの事例に合わせた排泄ケア の援助			
3		4 つの事例に合わせた食事の援助			
4					
5					
6					
7					
8					
9		4 つの事例に合わせた清潔ケアの 援助			
10					
11					
12					
13					
14					
15		事例に合わせた援助			
16					
17					
18					
19					
20					
21		技術実技試験 対象に必要なニーズを理解し、患者に合わせた援助の技術を確認する			
22					
23					



授業科目名	基礎看護技術論Ⅱ	1 単位	年次・開講						
		4 5 時間 / 2 3 回	1 年次・ 前期						
担当講師	高林圭子 佐藤成美 渡邊 瞳	実務経験教員対象科目		○					
科目目標	事例をもとに対象に応じた診療上の援助技術が習得できる								
使用テキスト	医学書院 e 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ								
回数	単元	授業内容	事前学習	方法	評価				
1	オリエンテーション	事例1～4のアセスメントと必要な援助技術を見出す	なし	講義 演習					
2	呼吸・循環を整える援助技術	事例3に応じた、酸素吸入・薬液吸入	事例 1～4 の状態・状に応じた援助技術についての援助計画を自己学習し、提出してから授業に臨む	実技	技術試験 10 点				
3		事例3に応じた、吸引							
4									
5	与薬の援助技術	事例4に応じた、口腔内与薬、直腸内与薬			事例 1～4 の状態・状に応じた援助技術についての援助計画を自己学習し、提出してから授業に臨む	実技	技術試験 10 点		
6									
7		事例4に応じた、注射の準備・医療廃棄方法							
8		事例4に応じた、皮内注射							
9		事例4に応じた、皮下注射							
10		事例4に応じた、筋肉内注射							
11		事例4に応じた、静脈内注射							
12		事例4に応じた、点滴静脈内注射							
13	対象のニーズに応じた援助技術	事例1の状態・状況に応じた看護技術					事例 1～4 の状態・状に応じた援助技術についての援助計画を自己学習し、提出してから授業に臨む	実技	技術試験 60 点 + 態度・ 自己学習内容 20 点
14									
15		事例2の状態・状況に応じた看護技術							
16									
17		事例3の状態・状況に応じた看護技術							
18									
19		事例4の状態・状況に応じた看護技術							
20									
21	技術実技試験 対象をアセスメントし、必要な援助を技術の到達を確認する								
22									
23									